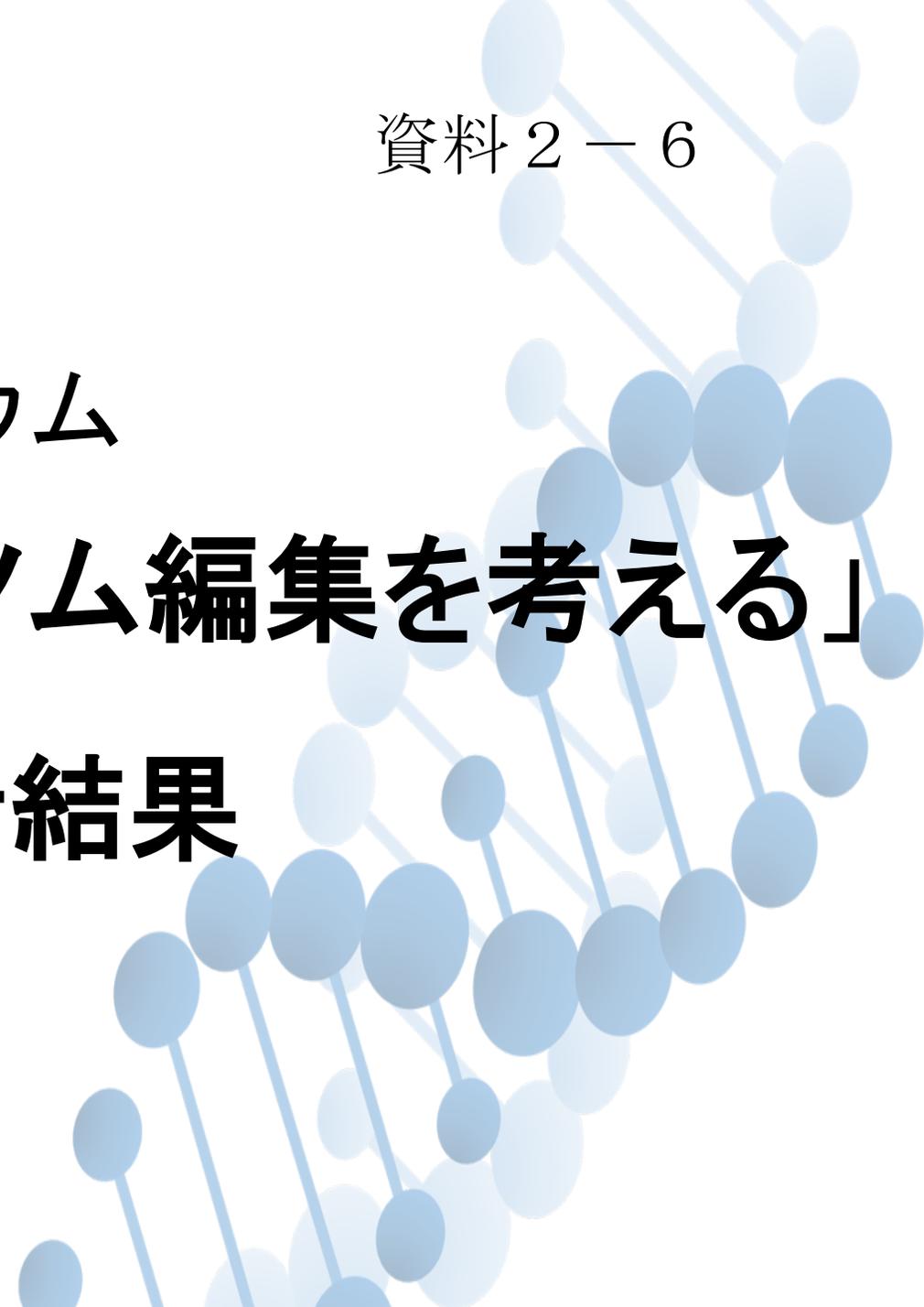
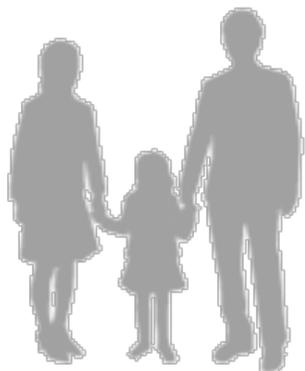


公開シンポジウム

「ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集を考える」

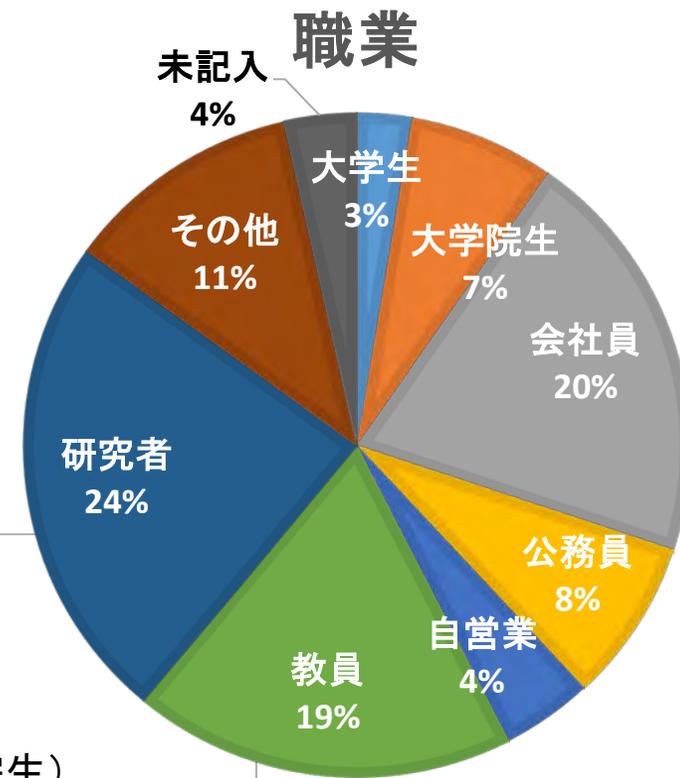
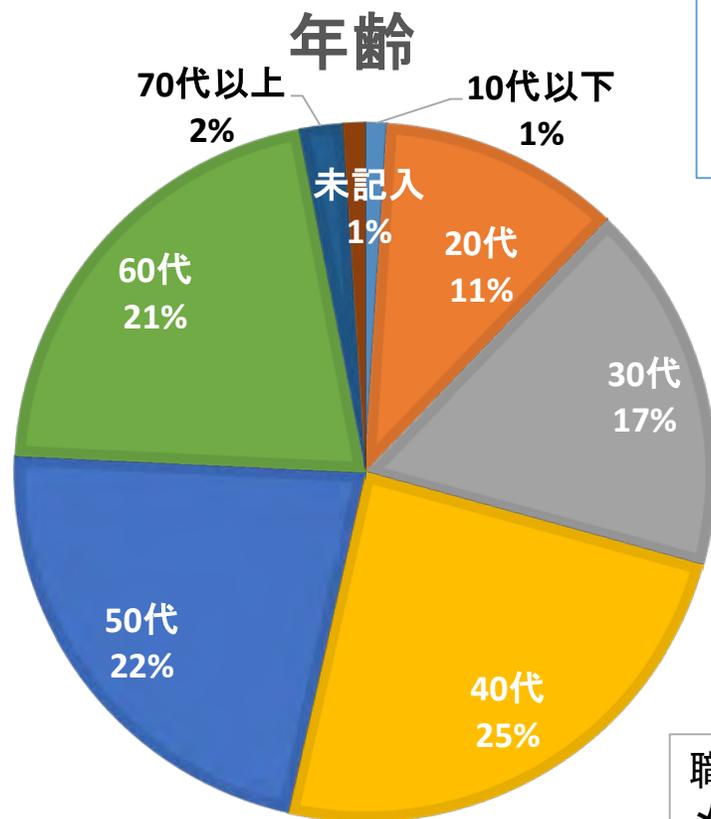
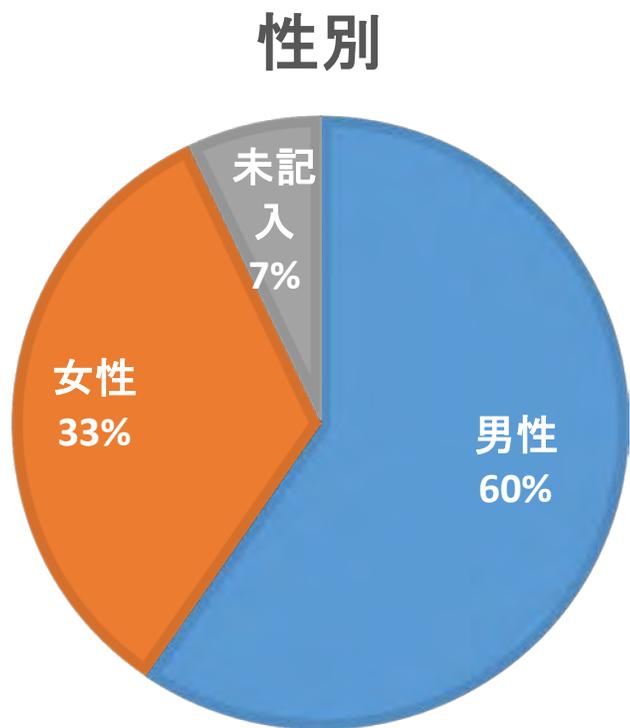
アンケート集計結果



アンケート回答者情報

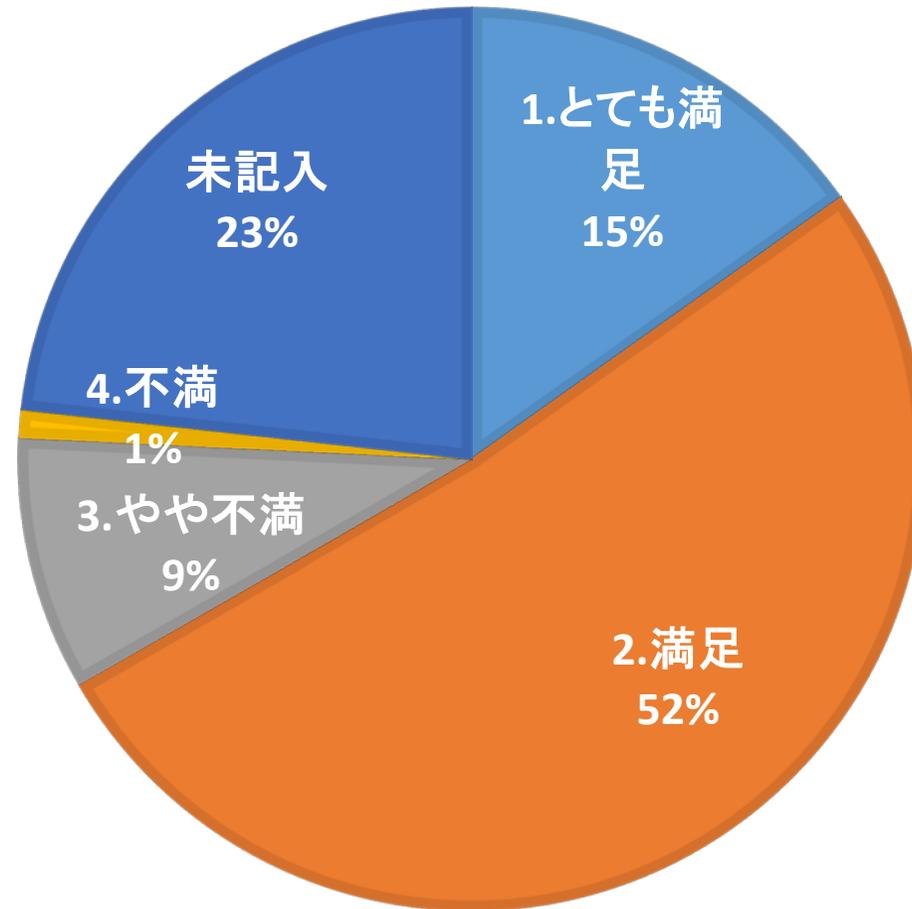
(アンケート回収率:61.5%)

シンポジウム出席者 186人
内訳
・一般 132人
・メディア 29人
・委員会メンバー 11人
・参考人 5人
・事務局 9人

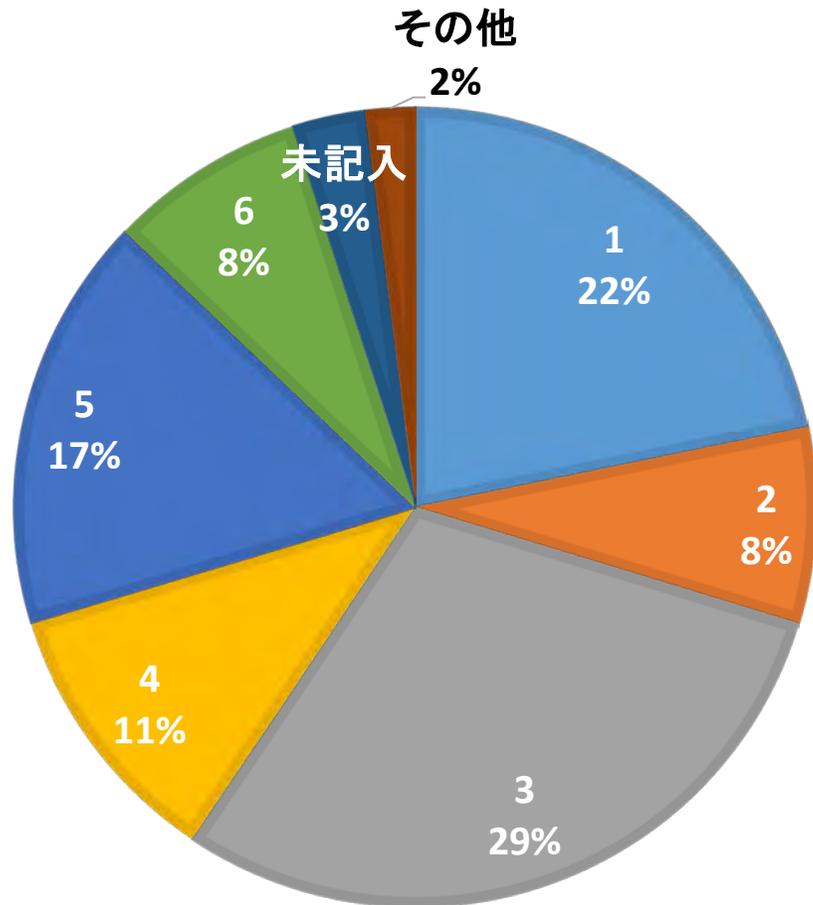


職業その他:
メディア関係1
医師3
団体職員2
主婦1(兼大学院生)
看護師・遺伝子カウンセラー2

設問2 シンポジウム満足度



設問3 人としての尊厳が生じる発生（発達）段階

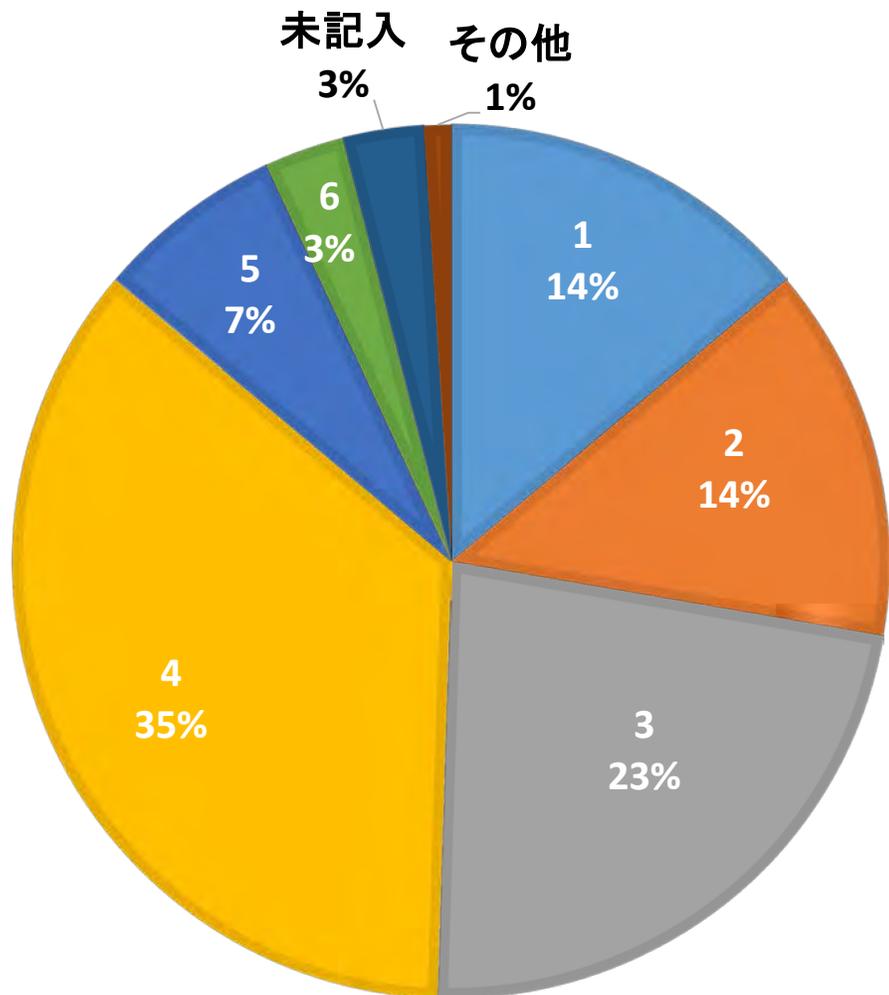


1. 胎内、胎外を区別せず、卵子と精子が受精した段階
2. 胎内で、卵子と精子が受精した段階
3. 胚が胎内(子宮)に着床した段階
4. 胎児の心音が聞こえるようになる段階(6週目頃)
5. 胎児が母体外での生存可能性をもつ段階(母体保護法では22週目以降)
6. 分からない

その他: 卵子・精子も尊厳が認められるべき
答えたくない

設問4 ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集について

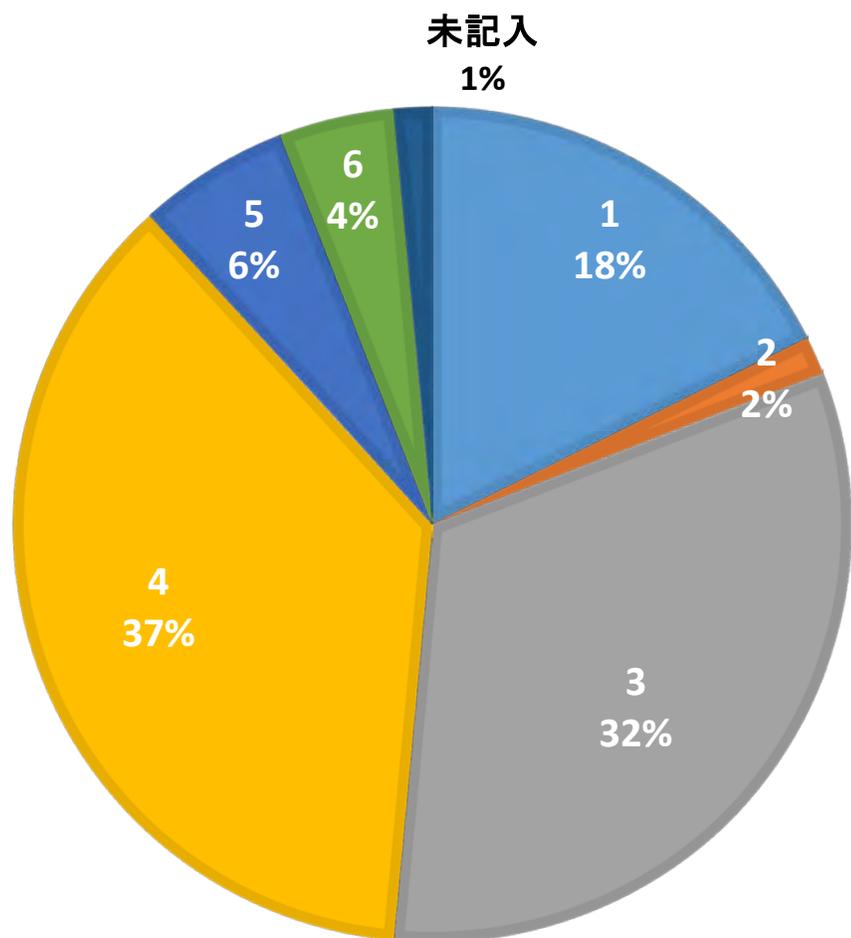
:ヒト受精卵などを遺伝子改変・部分標識などの操作することを受け入れるか



1. 基礎研究(胚を胎内に移植しない)、臨床研究(胚を胎内に移植する)ともに受け入れられる
 2. 臨床研究は受け入れないが、基礎研究は実験目的の受精も含めてどのような内容でも受け入れる
 3. 臨床研究を目指さない科学的な基礎研究であれば、実験目的の受精も含めて受け入れる
 4. 科学的な基礎研究で、実験目的の受精を行わないならば受け入れる
 5. 基礎研究、医療応用ともに受け入れない
 6. 分からない
- その他: 臨床研究も場合によってはOK

設問5 ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集を受け入れる理由

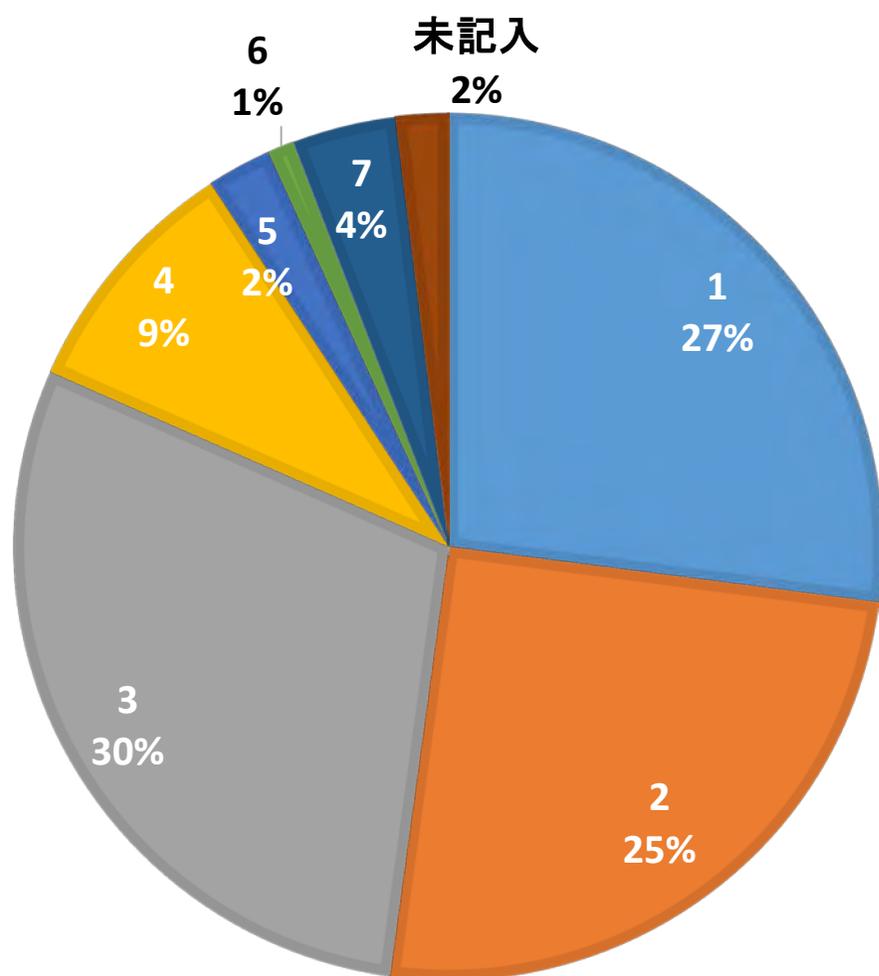
(設問4で1-4と答えた人のみ回答、複数回答)



1. 不妊の場合でも、妊娠や出産の可能性が高まるかもしれないから
2. 親の希望の特徴を備えた子をもてるかもしれないから
3. 親に遺伝子疾患の変異があっても、子で発症予防できるかもしれないから
4. ヒトの発生、発達について大切な知識が得られるから
5. 生殖医療の発展を通じて我が国の経済成長がみこまれるから
6. その他の理由
 - ・禁止する理由がない。道徳では弱い
 - ・研究に国境はなく、有用な研究手法は必ず利用される
 - ・疾患の病態を深く理解でき、治療を発見する為基礎的知見が得られる可能性がある為
 - ・わからない
 - ・経済成長がみこまれるという可能性を排除してはいけない
 - ・知らないことを知りたい・探求心
 - ・妥当と判断した

設問6 ヒト受精卵や配偶子のゲノム編集への社会的取組み

: 社会的な対応についてどう考えるか(複数回答)



1. 省庁における研究のあり方の検討と、研究指針の制定が必要
2. 国会における研究のあり方の検討と、関連規制法の制定が必要
3. 市民による研究のあり方の検討と、研究監視体制の構築が必要
4. 公的な研究費助成の増額による研究振興が必要
5. 公的な研究費助成の停止による研究抑制が必要
6. さらなる取組みは特に必要ではない
7. その他の取組み

- ・農業や動物実験も含めてゲノム編集一般について規制を考えるべき
- ・市民参加の仕組み
- ・学会等における自主的な規制
- ・③は不適切。むしろ②のルートを紹介すべきであり、それ以外のルートを用いるべきでない。研究者団体の自律と、国民の信頼を組み合わせる枠組みで考えるべき。
- ・一定以上の知識と良識を有する市民も巻き込んで検討
- ・国際的なコンセンサス形成(医療ツーリズム対策)
- ・③及びTechではなく、社会学、倫理学分野への助成により
- ・取組が変わると思えない
- ・やらないことを決める国際的に。
- ・学会(に代表されるアカデミア)による議論・提言・自主規制